

ちば中学生県議会の今後のあり方検討ワーキンググループ（第3回） 議事要旨

1 日 時 令和6年9月20日（金）午後3時30分～午後4時25分

2 場 所 議会棟5階 議会運営委員会室

3 出席者 構成員 小路正和議員、伊豆倉雄太議員、田中幸太郎議員、
川村博章議員、安藤じゅん子議員、鈴木均議員、
仲村秀明議員、石川りょう議員、浅野ふみ子議員
関係課 議会事務局政務調査課 田岡千子副課長、茂木純子議会広報班長
教育庁学習指導課 大木圭教育課程指導室長、菅根彰宏指導主事
事務局 島田昌信議事課長、飯嶋茂人議事班長、檜垣沙希主事
欠席者 なし

4 議事概要

（1）議事要旨について

座長から第1回、第2回WGの議事要旨の確認を行い、了承を得た。

（2）他都道府県の出前講座の参加議員選出について

事務局から他都道府県の出前講座の参加議員選出について説明。

- ・出前講座は11都道府県で実施され、そのうちの8つが学校の所在地の選挙区以外の議員からの選出、残りの3つは学校所在地の選挙区の議員も選出可能となっている。

（3）高等学校の主権者教育について

教育庁学習指導課から高等学校の主権者教育について説明。

- ・高等学校の公共（公民）の授業は年間70時間で、民主社会と政治参加については7時間程度となる。そのうち選挙制度とその課題に当たっては概ね2時間程度となる。

（4）代替案の個別検討について

ア 出前講座

- ・小・中学生を対象とするのであれば、市議会で実施することが相応しいと思うため高校生がよいと思う。
- ・テーマや講演方式にするか、対話方式にするかを決めておかなければならないと思う。

イ 県議会体験会

- ・こちらへ来てもらう前にある程度テーマを提供し、それに対し質問をしてもらい、議員が答弁を行ってもよいと思う。また、思い出に残るとの声があるため、予算委員会形式等で議場にて行うことがよいと思う。
- ・委員会形式で分かれて行い、委員長役の高校生が議場で発表するようなこともよいと思う。

- ・フリーで行うと話が收拾つかなくなることもあるため、テーマは決めておいてもらい、こちらもしっかりと答えられる準備をしておく必要もあると思う。
- ・授業と切り離して考えてもよいと思う。
- ・チラシ等を作成・配付し、希望者がいた場合にその学校単位で申込みをしてもらえば、学校側に負担がかからない。
- ・実施可能な形で、まず実施してみることが大事。
- ・高校生に絞らなくてもよいのではないかなと思う。小中高大のそれぞれの発達に応じた興味関心に、議員が触れて一緒に体験することはとてもよいと思う。
- ・対象は高校生で私学も含むべき。

ウ 高校生県議会

- ・出前講座や県議会体験会は参加側に多大な負担はないが、高校生県議会は参加側、受入れ側ともに多大な準備をしなければならないので、出前講座か県議会体験会のどちらかを選んだ方がよいのではないかな。
- ・県議会議員が何をしているかわからない人達も多いだろうから、なり手不足を解消するのであれば、仕事内容やどのような思いで議員をしているのか等を、直接本人に話しかけられる方がよいと思う。今までの中学生議会の形で行うとみんなで劇をしているようで、それが議員になろうというきっかけになるとは思えない。
- ・シナリオどおりであることが1つの問題で、その結果、出番がない。ただ一方で、座っているだけだとしても、いい経験になる。

エ 全体

- ・県議会体験会と高校生県議会がミックスされた委員会を行い、最後に議場でセレモニーのように発表することはよいと思う。体験し議論するようなことは、参加した人にとって満足感がある。
- ・県議会体験会と高校生県議会がミックスされたものは、半日ほどかかるかもしれないが、昼休憩時に議員と話す機会を作ることでもよいと思う。
- ・時期や場所について、アンケートをとるなど、ニーズに合うような形にした方がよいと思う。
- ・各常任委員会を担当する議員を選び、議論するテーマを作成した上で、高校生に議論してもらい、本会議に臨むような形がよいと思う。委員長、副委員長は会派関係なく各常任担当の議員が順番に行えばよいと思う。
- ・やはり実施してみることが1番大事なところである。県議会体験会が一番取っかかりはよいと思う。対象は最初、高校生で実施し、それが上手く行った際には、対象を広げていくということにすればよいと思う。
- ・やはり県議会体験会がよいと思う。なお、取り上げるテーマの事前準備ができていないと中々大変だと思うが、まず実施してみて問題が出てきた際にその都度直していけばよいかなと思う。
- ・対象はなるべく多くの人たちでやるのか、選別してやるのかは実施しながら考えないといけないと思う。主権者教育という意味で投票率を上げる、政治参加を促していくという点においては、本当はこちらから出向いて気づいてもらうことが理想だとは思いますが、それには大変な準備が必要なため、やり方としては県議会体験がよいと思う。しかも普段入らない議場等に入るという体験もでき、その面白さもあると

思う。まず実施してみて、もし出前講座を実施するという選択肢が作れるのであれば、同じようなことが場を変えてやれるとよいと思う。

- ・やはり県議会体験会がとてもしっくりしてスピード感を持って取り組めそうである。OriHimeを使い、身体が不自由な子も参加することができたり、また例えばバッチを記念に用意すれば、思い出になると思う。可能ならば県議会で運用しているX等で、実施前、実施中、実施後に発信すれば盛り上がるのではないかなと思う。
- ・まず実施してみるということによいのではないか。ある程度の方向性が出たため、事務局で少しまとめてもらい、例えば人数や対象にしても逆に高校生だと有権者になるということも事実で、その辺の問題等の確認事項も出てくる。次回ブラッシュアップして、案を決めることがよいのではないかな。
- ・やはり一番実施しやすいものから実施してみる。そして、可能性が他にあると思えば、広げればよいと思う。実施することが決まった後に技術的なことを今後、話していければよいと思う。

オ 質疑応答

- ・実施する時期は。
→内容によるが、中間考査等の時期を外してもらうことになると思う。
- ・授業の枠の中で実施する場合、その枠を大きく超えることはできないと思うが、かけられる時間はどのくらいか。
→基本的には超えることはできない。対象がまだ定まっていないが、例えば夏休み中に希望者のみというの形ならば授業は関係しない。授業の一環として行おうとすると、日程調整も含めて非常に難しい。

(5) その他

- ・次回は県議会体験会をベースにしたたたき台の案を事務局から提示する。
- ・次回は12月議会前までに実施予定。